

第1回 南大阪便教会 2014年12月14日

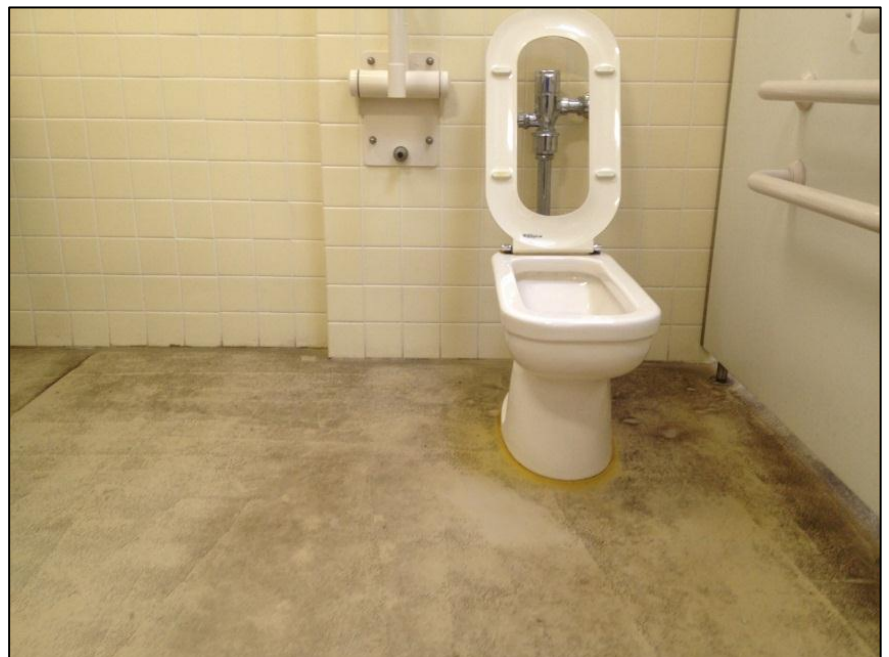
2014年12月14日(日)に第1回南大阪便教会を開催させて頂きました。「1人の100歩より100人の1歩」という鍵山秀三郎先生のお言葉を胸に、新たな一步を踏み出すことになりました。いつも便教会を開催されている先生方が感じておられることを感じ、学びたい。その想いでスタートさせて頂きました。



【寒風吹きすさぶなか】

13名もの方が参加してくださいました。遠くは奈良、神戸より駆けつけてくださり、感謝の想いでいっぱいです。尊敬すべき先生方と一緒に活動でき、心から嬉しく思いました。また、これから用事があるという方も、「同じ方角だからね」と早くから駆けつけてくださりました。集まってくださる方がいることがこれほど心強いこととは思いませんでした。幸せすぎてなんと云えばよいのかわかりません。

今回、開催する側になってみて、まず感じたことは、「どれだけの人が集まってくれるのだろうか？」ということや「準備はこれでいいのかな？」ということです。そして、いつも参加させて頂く各地の便教会の先生方が、どれだけ想いを込めてご準備をされているのかということです。便教会に参加させて頂くときは、「よし！トイレ掃除をするぞ！」という気持ちで朝家を出ます。そして掃除が終わると爽快さと共に帰路につきます。そこで完結するのです。しかし今回は、事前に準備をしたり、後の片づけをするなかで、一人自分の心を整える時間を頂きました。思いをめぐらす、また一日を振り返るその時間がすごく貴重であったと感じています。



(お掃除前のトイレの様子)

【床をピカピカにしようじゃないか】

ある先生がトイレの様子を見られて、「床をやったほうがいいのでは？」と言われました。その一言で、全員で床に集中してお掃除をしました。「まずは床をピカピカにして、子どもたちをびっくりさせよう」と、すごい意気込みでした。みるみる床が輝いていきました。スコッチブライト(ナイロンたわし)で床をゴシゴシこする

あまり、スコッチブライトは、すぐに傷みそうでした。傷まないようにするにはどうすればよいのかを考えながら試行錯誤していますと、柔らかく手を動かすと良いと自分なり発見しました。そうしますと、不思議と子どもの顔が思い浮かびました。いつも自分の強引さに子どもはどんな思いでいるのだろうと思うと、自分のあり方を反省するしかありませんでした。もっと柔らかく。そしてもっと子どもに寄り添いたい。そう感じました。

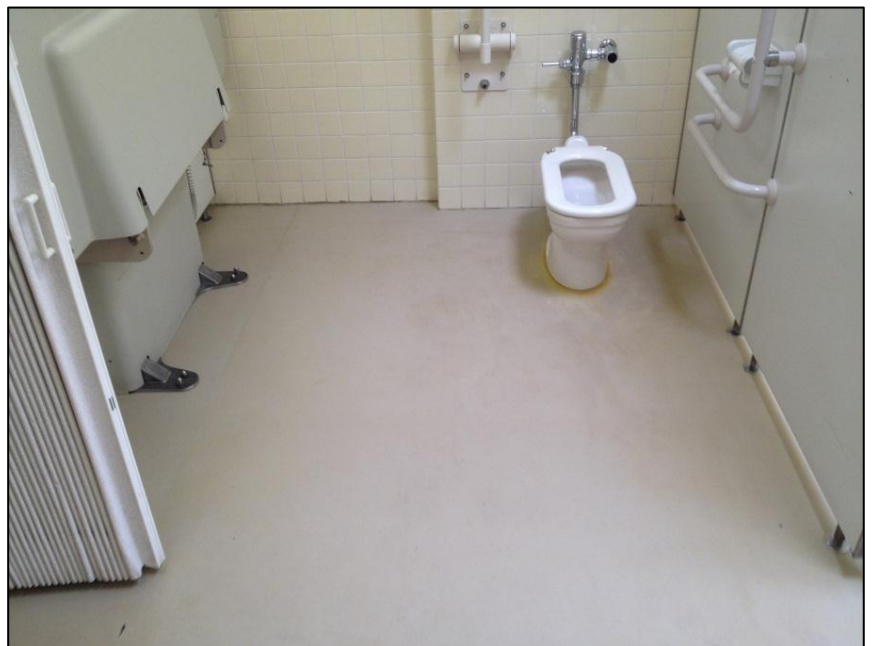
また、今回はいつものトイレ掃除とは違うかたち（床掃除に専念）でした。決まったやり方だけでなく、場所に合わせて臨機応変に最も良いやり方を模索する重要性に気づかせて頂きました。私の凝り固まった頭を柔軟にしていきたいです。



(ひたすらに床を磨くこと約2時間)

【厚みのある人間に】

体験発表のときに、「厚み」について話される先生がおられました。ナイロンタワシで床をこすりながら、タワシに厚みがあると、こするときに安定し安心して取り組めたということでした。そこから、子どもとのかかわり方を振り返っておられました。子どもから見て、厚みのある教師の方が子どもきっと安心できる。教師自身がトイレ掃除に限らず多くのことを体験し、学び、深めていくことで厚みが増す。自分自身にベクトルを向け、自分を磨く。そしてその厚みでもって、子どもを受け入れる。そんな教師を目指したいと私も強く感じました。



(驚くほど白く、輝く床に)

【温かな空気】

皆さまに「温かい雰囲気の学校だね」、「子どもたちはいないけれど、その様子が想像できる」と言って頂きました。嬉しいお言葉でした。しかし、温かいのは、集まって下さった皆様であると感じました。便教会の皆様の雰囲気が温かいのです。この雰囲気は私の目指す目標であります。便教会の皆様と出会ったことで、私の人生は大きく変わりました。これからも皆様を目標に一步一步進んでいきたいと思っています。支えて下さった皆様、心を寄せて下さった皆様、ありがとうございました。心より感謝申し上げます。

南大阪便教会 松浦弘幸

